

14 事務事業評価シートの見方

事務事業

目的
施策を実現するための
手段

成果
事業により実現を目指す
状態

事業成果指標
成果を計る測定可能な
指標

事業の実施内容
事業の実施状況

事務事業	44	学校施設の改修					
章	2	ともに学ぶ、文化とふれあいのあるまち					
大項目	01	生涯学習、スポーツの推進					
施策	01	学習・教育環境の充実					
事業内容							
目的	区立学校の校舎棟・屋内運動場を計画的に改修することにより、児童・生徒の安全と良好な学習・教育環境を確保します。さらに、将来的な維持費の軽減と施設の延命を図ります。						
対象・手段	建設又は改修後一定年数を経過した区立小・中学校を対象とします。						
成果（事業が意図する成果）							
改修を行うことにより、施設の安全性の確保と機能維持を図り、良好な学習・教育環境を整備できます。							
事業成果指標							
	指標名	定義	目標水準				
改修割合		各年度に計画している改修の達成率	(毎) 年度に				
			(100%) の水準達成				
			() 年度に				
			() の水準達成				
			() 年度に				
			() の水準達成				
成果の達成状況							
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
事業 成果 指標	目標値 1	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
	実績 1	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
	= /	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
	目標値 2		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績 2		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
	目標値 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の実施内容							
平成18年度	<外壁事前調査> 小学校・校舎 - 2校、小学校・屋内運動場 - 1校 <屋上防水工事> 小学校・校舎 - 3校						
平成19年度	<外壁事前調査> 小学校・校舎 - 2校、小学校・屋内運動場 - 2校、中学校・校舎 - 1校 <外壁改修工事> 小学校・校舎 - 2校、小学校・屋内運動場 - 1校						

トータルコスト
決算数値である

減価償却算出の考え方
施設の残存価格を整備費の10%とし、「定額法」により耐用年数に応じて減価償却費を算出した

部名称	教育委員会事務局		課名称				教育施設課
	単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考	
トータルコスト	事業費	千円	45,421	0	0	0	事業費については、17年度から発生主義の考え方を取り入れていきます。<減価償却費の算定>(外壁改修)工事費65,392千円×90%(残存価値10%)÷耐用年数20年=2,943千円(屋上防水)工事費69,854千円×90%÷15年=4,192千円[18年度3,127千円 19年度6,818千円]
	人件費	千円	1,167	1,251	1,490	2,974	
	事務費	千円	0	0	0	0	
	減価償却費等	千円	0	5,818	8,945	16,080	
	総計 = + + +	千円	46,588	7,069	10,435	19,054	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	46,588	7,069	10,435	19,054	
受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00		
財源内訳	一般財源 = -	千円	46,588	7,069	10,435	19,054	
	特定財源	千円	0	0	0	0	
	一般財源投入率 /	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
職員	常勤職員	人	0.14	0.15	0.18	0.36	
	非常勤職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	

耐用年数
基本的に税法上規定に基づいている

事業に関する検討課題
目的に対する妥当性、目的に対する事業実施上の問題、成果に対する実施状況など

- 1: 計画どおりにすすんでいない
- 2: ほぼ計画どおり
- 3: 計画どおり

事業に関する検討課題

老朽化した学校施設を多く抱える現状から考えると、統合も含めた施設の建替えは喫緊の課題ですが、建替えまでには時間がかかり、経費調達も不可欠です。したがって、建替えまでの間、児童・生徒の安全と施設の延命のため計画的改修がますます重要となってきています。その際、学校施設の保全計画、統合計画を立案しつつ、さらなる効率的な改修を行っていくことが必要です。

事業の達成度
目的としているところが達成できているのか

事業実施による成果
事業実施したことで、事業の意図する成果が上がったか

効果的・効率的な視点
費用対効果という面から効果的・効率的に行われているか

行政関与の妥当性
サービスの負担と担い手の観点から関与は妥当か

目標設定の妥当性
区民ニーズを踏まえた目的、目標になっているか

施策寄与度
3年間事業を実施したことで、施策の目的としているところに寄与したか

評価基準に基づく評価と理由	達成度	3	各年度に計画した改修をすべて完了しました。
	実施の成果	3	平成17年度から19年度にかけて4校の外壁工事、7校の屋上防水工事を実施し、児童・生徒の安全と施設の延命をはかりました。
	効率性	2	児童・生徒の安全と施設の延命効果を見据えながら経費の節減を図ることができました。ただし、計画策定時に計画的保全の面から必要であっても、実施時期を先送りした施設もあります。今後も現場調査をしながら時宜に適った改修を行っていきます。
	行政の関与	3	良好な学習・教育環境の整備は、学校設置者である区の責務です。
	妥当性	3	学校施設の保全計画、統廃合計画を立案しつつ、計画的・効率的な改修を行っており、妥当です。
	施策寄与度	3	平成17から19年度の3年間に4校の外壁工事、7校の屋上防水工事を実施し、児童・生徒の安全と良好な学習・教育環境の確保に寄与しました。

総合評価、過年度評価
18年度 B
17年度 B
16年度 A
15年度 C
平成16年度以前の過年度評価
A: 目標以上の成果
B: 計画どりの成果
C: 制度改正等により見直し

総合評価
学校施設の改修は、安全で良好な学習・教育環境を確保するために、施設の現状と将来を立案しながら、計画的に進めてきました。19年度も17、18年度同様、当初の計画どおり改修工事を実施したため、評価はBとします。また、17から19年度の3年間の実績でも、各年度に計画の改修をすべて完了したため、Bと評価します。

改革方針
老朽化した学校施設を多く抱える現状から考えると、統合も含めた施設の建替えは喫緊の課題ですが、建替えまでには時間がかかり、経費調達も不可欠です。したがって、建替えまでの間、児童・生徒の安全と施設の延命を図るための計画的な改修が重要です。学校施設の統合計画を立案しつつ、予防保全の考え方にたった中長期修繕計画に基づき、適切で効率的な改修を行っていきます。本事業は、第一次実行計画の「129中長期修繕計画に基づく施設の維持保全」に引き継いで実施していきます。

- 方向性
- 1: 現状のまま継続
 - 2: 手段改善
 - 3: 縮小
 - 4: 拡大
 - 5: 統合
 - 6: 休廃止
 - 7: その他

総合評価
事業の目的や意図する成果に対して達成できているか(19年度評価と過去3年間評価)

改革方針
事業に関する検討課題を踏まえた事業の方向性と平成20年度事業へのつながり